

令和5年10月21日(日)

主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催:株式会社 ストーリー

こぱんはうすさくら川口青木教室・川口戸塚教室

～義務教育9学年すべてを担当した学校心理士が語る～

# 『小中学校に入学するまでに必要な力 卒業までに必要な力』

- 必要な力「生活」「学習」「仲間」の具体的な内容
- 中学校の成績のつけ方から、今すべきことを考える
- 「S-M社会生活能力検査」を使って今後の課題を探る

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

小学校入学までにやらなくてはいけないこと

※小1でやることは決まっている

“できない”のではない、『準備に時間が必要な子』

《特別支援が必要な子の特性》

→▲新しい事に取り組むことが苦手(自信がない)

→▲身につくまでに時間を必要とする

☆【ならば・・・早くから(今から取り組めば良い)】

(学習の例)色塗りは、外枠をなぞってから塗る

(生活の例)名札を付ける・マスクをする

(仲間の例)色々な子どもと混ぜて遊ぶこと

将来やらなくてはいけないことは絶対にやらせる

# ○“加配やサポーター等追加支援”の注意

“加配支援”で、『できる』は小学校では通用しない

- ▲支援員が卒業までしっかり支援してしまう
  - 高校では支援員はマンツーマンでつかない
  - 高校では“できない子”になってしまう

## 《加配支援の原則》

- ①まずは、支援員と一緒にできる
  - ②支援員が見届け、できないことだけ支援する
  - ③支援員がいなくても1人でできるようにする
- ※本来③をめざすために加配がついている！

# 学習について① 文具等全般

## 《文具全般》

- ①キャラクターの文具は罪つくり
- ②消しゴムはシンプルでよく消える物を選ぶ
- ③多機能筆箱は、単なる遊び道具
- ④定規は折れにくいものを選ぶ
- ⑤鉛筆キャップは必要なし。余分な文具は買わない。
- ⑥丸い鉛筆は買わない
- ⑦スティックのりは、白いもの
- ⑧ハサミは、あらかじめ練習しておく
- ⑨鉛筆削りは、自分でできるように
- ⑩シール等で全てに記名する

## 学習について② 算数

### 《算数》

- ① 数を正しく数える時は、○でかこう
- ② 1 数を正しく書く・読む (0 の読み方や 0 の書き方)
- ③ 「10 ごとにまとめる考え方
- ④ 10 のまとまりを ○ で囲えるようにしておく。
- ⑤ 「前から ○ 番目」「後ろから ○ 人」の経験
- ⑥ 「いくつといくつ」の遊び
- ⑦ たしざんやひきざんは具体物で経験させる。
- ⑧ 時計は日頃から慣れさせておく。
- ⑨ パズルや積み木遊びをたくさん体験させる。
- ⑩ サイコロを使った「双六あそび」の経験

# 学習について③ 国語

## 《国語》

- ①じぶんの名前は書けるようにしておきたい
- ②絵本でも図鑑でもよいので本に親しむ習慣
- ③正しい言い方「おとうさん」「たいいく」など
- ④「一～十の読み方」 七は「なな」か「しち」と読む  
「ひち」は× 十は、「とお」とも読むが、「とう」は×
- ⑤マスの中に書く
- ⑥鉛筆の正しい持ち方は、補助具で解決。
- ⑦本の持ち方
- ⑧横書きは数字、縦書きは漢字

# 生活について①

①まずは、健康。「すっきりランチの生活習慣」  
朝起きてからのパターンを同じにする。

□夜8時を過ぎたら何も食べない

□朝ご飯前に10分動く

□朝ご飯は20分かけて食べる

②通学路は入学前に練習して歩く

③トイレへの対応(洋式?和式?)

※足首までズボンを下げなくてもできるようにしておく

④食事の指導(介助なしで食べる)

⑤掃除の指導(ぞうきんのしぼり方など)

⑥自分の机の整理整頓

⑦授業(カバン)の準備の仕方

## 生活について②

- ⑧ 提出物の出し方
- ⑨ 靴や服、靴下等は自分で脱着
- ⑩ ハンカチやマスクの準備
- ⑪ 気持ちの良いあいさつの仕方
- ⑫ 朝は、自分で起きる
- ⑬ マスクをいやがらない
- ⑭ 正しい手の洗い方
- ⑮ ボタンやピン(場合によっては、紐の結び方)
- ⑯ できることからお手伝い
- ⑰ 水筒は、コップ式のものがよい。
- ⑱ 紙・手紙のたたみ方

## 生活について③

- ⑱交通安全（横断歩道の渡り方等）
- ⑳お金を払って物を買うこと
- ㉑呼ばれたら「はい」の返事ができる
- ㉒正しい歯磨きの仕方
- ㉓うがいができる
- ㉔カバンにキーホルダー等はつけない。  
お守りもカバンの中にしまった方がよい。
- ㉕ご褒美に安易にお金や物を渡さない。
- ㉖ほめ方は、  
「位置づけ」「価値付け」「方向づけ」
- ㉗どこでもできるようにすることが大切

# 仲間について①

《注意》

「ゲーム」や「YouTuber」の子守は厳禁！  
将来取り返しの付かないツケがまわってきます

ICD11 (WHOの診断基準)

○アルコール依存症

○ギャンブル依存症

○ゲーム障害(新)……………同じ精神病

つまり、ゲームを毎日3時間する子は、毎日3時間飲酒したり、パチンコするのと同じ！？

## 仲間について②

いきなり集団に入れてもパニックになるだけ

- ①まずは、1対1でしっかり大人がかかわる
- ②1人の大人に2人の子ども(交代で待つ)
- ③2人の子どもの関わりを大人が観る
- ④3人の子どもの関わりを大人が観る
- .....人数が増えていく

他に「動物との関わりも有効」

「植物を育てるのも有効」

※生き物と接することが大切

# 早期からの療育が有効！

◎できるなら小2まで取り組むと1番良い  
『小3から難しくなるわけは？』

☆学習が難しくなり、努力しないと身につかない内容になる。成功体験が得にくい。→  
やる子とやらない子の差が拡大する

☆ラストチャンスは中3まで？

▲中学校卒業後は難しい！

◎通信制サポート高校などから復帰！

(例) 明蓬館SNEC高等学校→中学部も有

# 「通常の教育」と「特別支援教育」の違いを一言で表すと……（自己肯定感を高めるコツ）

## 《通常の教育》

### できないことへのチャレンジ教育

※今までのできた自信があるからできる。

## 《特別支援教育》

### できることからの出発教育

※やらせでもよい。まずは、  
できた経験を沢山積むことで  
自信となり自己肯定感が高まる



# ○中学校の中身から今すべきことを考える

小学校6年生までは、不登校は、77人に1人  
しかし・・・中学校へ入学すると  
不登校の生徒の数は20人に1人 なんと4倍

なぜなのか？

- ①毎時間担任が変わり毎時間同じ事を注意される  
また、指導の統一性がなくなってくる
- ②宿題がまとめて出る
- ③部活動の人間関係が上手くいかない
- ④加えて・・・恋愛感情をもっても・・・  
→自己肯定感がどんどん下がる

# 中学校の成績のつけ方から考える

一般の“高校入試”で必要になるため！

5教科の合計得点＋内申書の点数＝高校の合否  
一般的に5対5の割合だが、一部進学校は6対4のように少し学力重視の所もある ※要確認  
しかし『特別支援学校高等部』や『特別な高校』  
や『専修学校（専門学校＋通信制高校）』は、提出はあっても、入試の合否に関係ない所が多い。

つまり、一般の高校に進学しないなら、内申書（通知表の1～5）は、実質関係ない！

# 不登校や特別支援学級は成績が出ない？

“評価”はあるが“評定”が出ない！

不登校や特別支援学級の場合・・・

◎評価は『言葉でコメントで出す』ことが多い

▲評定は、『通常学級の中でどの程度達成できたのかを“3 (◎) ・ 2 (○) ・ 1 (▲)”や  
中学校においては“1～5”で評定を出すことができないので、『/』や『1』となる

現在この問題を受けて、徐々に不登校や特別支援学級の生徒に対しても評定がでるようになってきている。 →学校によって差がある (※要確認)

# 小学校・中学校の評価の内容

「生きる力」をはくぐむために  
学校教育法及び学習指導要領の総則  
において以下の力を育成することが  
示された

- ①基礎的・基本的な知識・技能
- ②知識・技能を活用して課題を解決する  
ために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③主体的に取り組む態度

## 中学校の場合、昔は割合が決まっていた

5 → 7%      4 → 24%      3 → 38%  
2 → 24%      1 → 7%

【絶対評価に相対評価を加味する】  
昔は、クラスの人数に対して5や3、  
1の割合や数が決まっていた。  
無理やり1をつける必要があった。  
今は、基本的な割合を気にしながら、  
無理して1はつけない。      しかし . . .

# 内申書(通知表の1~5は以下の3観点が重要)

## 1. テストの点数

(単元テスト+期末テスト)

## 2. 提出物

(日々の宿題+ノート提出)

## 3. 授業態度

(発言+授業の参加態度)

# 1. テストの点数 (単元テスト+期末テスト)

- 【1】 ほぼ0点 (クラスで1~2名?)
- 【2】 平均点より下
- 【3】 ほぼ平均点
- 【4】 平均点より上
- 【5】 ほぼ満点 (クラスで3~4名?)

## 2. 提出物

(日々の宿題＋ノート提出)

【1】提出しない

【2】遅れて提出

【3】期日に全て埋めて提出

【4】丁寧なやり直しをして提出

【5】自主学習内容を加えて提出

# 3. 授業態度

## (発言＋授業の参加態度)

- 【1】 授業の妨害や邪魔をする
- 【2】 やる気なし 挙手少ない
- 【3】 普通に授業に参加
- 【4】 やる気あり 挙手多い
- 【5】 できない子を助ける

では、例を出します(テストはよいが...)

1. テストの点数 . . . 5

2. 提出物 . . . . . 1

3. 授業態度 . . . . . 1

---

$$(5 + 1 + 1) \div 3 = 2.3$$

つまり、ほぼ通知表は『2』

では、例を出します(テストは悪いが..)

1. テストの点数 . . . 1

2. 提出物 . . . . . 4

3. 授業態度 . . . . . 4

---

$$(1 + 4 + 4) \div 3 = \underline{3}$$

つまり、ほぼ通知表は『3』

学校は“結果”より“過程”を大切にする

つまり、学校は、  
テストの点がよくなるのは、  
日々の取り組みや授業態度が  
よいからと考えている。

→過程（プロセス）を評価する  
ことが“教育”として重要  
と考えているのです。

今からできること 今からやるべきこと

## 【プロセスを褒める教育】

- ◎提出物は期日に出す。
- ◎間違えたところは丁寧にやり直して出す。
- ◎とにかく進んで手を上げる
- ◎分からないことは、先生に質問に行く。

## 子どもを伸ばすよりよい連携のあり方①

学校をはじめ各種機関ではもっとよい  
様々なサービスを受けることができる  
しかし、向こうから教えてくれない！！

→よいサービスは保護者が請求する

なぜ、向こうから教えてくれないか  
(※税金の控除も申告制ですね)

全員にそのサービスができないから  
※公務員の最大の欠点の一つ！！

◎医者意見書を使うとよい

## 子どもを伸ばすよりよい連携のあり方②

☆文句を言う前に情報を知って  
「かしこい親」になりましょう

### ※「個別の支援計画の作成」

保護者と相談のもと学校が中心になって作成。様々な機関も巻き込んで、有効な支援を書類の中に残していく。担当が変わっても残る。

# 小・中学校のうちに身につけさせたいこと

## 『知的能力』と『適応能力』

1 知的能力→『学校の勉強』『知能指数』

2 適応能力→『社会性』

◎両方大切ではあるが . . . .

まず大切なのは**適応能力（社会性）**

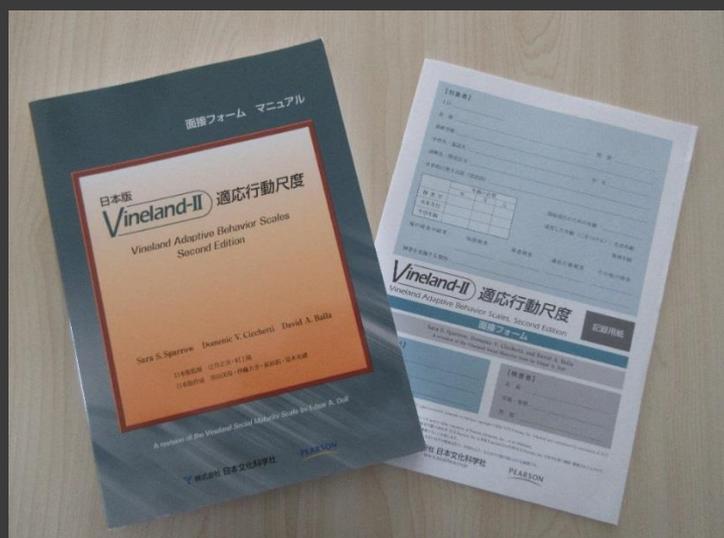
では、その大切と言われる

**適応能力（社会性）とは何か？**

# 【一人で生きていくための力(適応能力・社会性)】

ヴァインランドとS-M社会生活能力検査の活用

【厚労省の放課後等デイサービスのガイドラインにも示されている療育の内容】



「ヴァインランドⅡ」 「S-M社会生活能力検査」  
※なんと99%の放課後等デイで利用されていない！

まずは、何を身につけることが重要なのか  
※0歳～15歳までに身につけたい社会性  
～S-M社会生活能力検査から～

- 1 身辺自立
- 2 移動
- 3 作業
- 4 意志交換
- 5 集団参加
- 6 自己統制



## 就労の違い(山内の指導経験から)

- 養護施設へ行く・生活介護の子
- 作業所へ行く子(7歳の壁)
- B型事業所へ行く子(9歳の壁)
- A型事業所へ行く子(12歳の壁)
- 一般就労できる子(全て項目達成)

☆最終的に就労できるかどうかは、  
『社会性の高さ』で決まる！



# 本日の講師の話をもとめて本のご紹介

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの  
「就労」「進学」「進路」相談室→※新刊  
WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！



通知表がオール「もう少し」の学校心理士の考える  
**「特別支援教育」  
って何？**  
山内康彦



本書に書かれた内容は、通常の学級から特別支援学級、特別支援学校まで、すべてのお子さんの子育てに当てはまるものと考えて執筆しました。  
特別支援教育は、特別なものではなく、すべての子に優しい教育だと私は考えています。

特別支援教育が  
専門の学校心理士  
だから知っている  
山内康彦

**特別支援が  
必要な子どもの  
進路の話**

特別支援が必要な子どもたちは、  
将来どう生きていけばいいのか？  
全国の講演会で「知らなかった！」  
「知ってよかった！」と大反響

特別支援教育の専門家が、思い込みや先入観を外し、  
本当に役立つ情報と計画的に取り組む方法をわかりやすく語る！

山内康彦  
**相談室**  
**特別支援が  
必要な子どもの  
就労・進学・進路**  
山内康彦  
特別支援教育が専門の  
学校心理士が  
保護者のお悩みを  
スッキリ解消

特別支援教育の専門家として、毎年全国で100回以上の講演を行ない、個別に依頼される教育相談も1000件以上という著者が、寄せられた相談の中から、重要度が高く早めの対策が必要な項目を精選。

特別支援が必要な子どもを持つ保護者にとって、  
本当に知りたい情報をわかりやすく  
明快に解説します。

ご清聴ありがとうございました。